

## カメルーン観光資源

平成21年5月  
在カメルーン日本大使館

カメルーンはギニア湾のほぼ中部に位置する三角に形取られた国です。南北は1,200 kmに達するため、その気候もサバンナから熱帯雨林へと変化に富んだ体系を有していると言えます。

カメルーンが日本で一躍有名になったのはサッカーのワールドカップでした。カメルーンを訪れた方々は、都市郊外や地方村落でサッカーの練習をする人々の数に驚かされます。

カメルーンの観光省は、自然公園や保護地区におけるエコツーリズムを推進しています。その一例として、首都ヤウンデの南東約150 kmに所在し、1987年にユネスコの世界遺産に指定されたジャー保護地区が挙げられます。この約5,200平方キロの保護地区とその周辺では1,500種を越す植物や、400種類以上の動物や野鳥が生息しています。その他にも1億2千年前の化石が発見された北部州のマナンジア恐竜発掘地区、動植物や爬虫・両生・魚類の宝庫と云われる南西州のコラップ国立公園など、国内には20箇所の国立公園と保護地区があります。

カメルーンでは主に西部の3州を中心として首長制度が、また、主に北部の3州を中心として王宮制度が伝統的文化として受け継がれています。これらの地域の民族が行う伝統的な儀式や祭典には多くの観光客が来訪しています。

また、現在は渡航情報として「渡航の是非を検討してください」の危険情報が発出されている地域にあり、渡航には十分な安全対策が必要ですが、アンドレ・ジッドがカメルーンを訪問した時に「世界で最も奇観」と表現した極北州ルムシキの巨岩石、コーヒーやカカオやバナナの栽培から始まったリンベ植物園と隣接する標高4,090 mの活火山カメルーン山付近なども観光名所として挙げられます。

[渡航情報](#)